

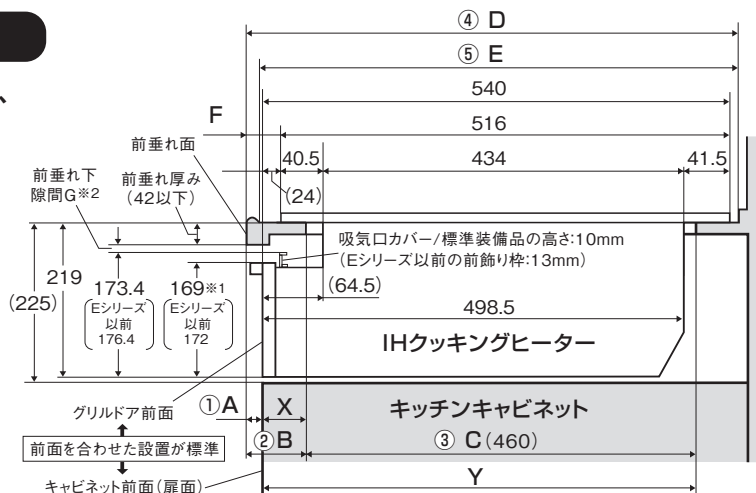
# IHクッキングヒーター設置のための 開口穴位置などのチェック手順

ビルトインIHクッキングヒーターの奥行き方向の設置位置は、グリル扉面をキャビネットの収納化粧パネル面に合わせて設置することを標準にしています。キッチン天板の前垂れ面から下部のキャビネット前面(扉面)までのA寸法が天板の開口穴位置(下図B寸法)を決める基準になります。キッチンキャビネットへの設置検討、開口穴位置の適否確認などが必要な場合には、以下の手順で関係寸法をチェックしてください。なお、設置説明書にも記載していますように、トッププレートの加熱ヒーター位置から可燃性構造物(壁面など)までの距離については、消防法による離隔距離を遵守してください。

## 1. 各関係寸法の測定

キッチンキャビネットの右図A～Eの寸法を確認し、  
指定寸法条件と比較判定する

- A：前垂れ～キャビネット化粧パネル面の出代
- B：前垂れ～開口穴端
- C：開口穴奥行き
- D：ワークトップ奥行き
- E：ワークトップ奥行き(平面部)
- F：IHのトッププレート先端の算定位置
- X：キャビネット前面～開口穴前縁の距離
- Y：キャビネット前面～開口穴後縁の距離



### 【確認箇所】

部 位	指定条件など	測定値または 設計値	判 定
①A寸法	5～20ぐらが多い		
②B寸法	標準寸法: $A+45^{+15}_{-7}$		
③C寸法	標準寸法: $460^{+4}_{-0}$		
④D寸法	最小D=540+A(推奨:600以上)		
⑤E寸法	最小E=D-A-24(推奨:576-A以上)		

【補足】※1 KZ-D60MS2・D60HS2は、162

※2 前垂れ下面とグリル上部間の隙間G

この隙間Gは、機種によって異なります。実際の設置時には、トッププレート下に付いているシールバックの圧縮残厚み分(通常約1～2mm)、少なくなります。加えて、キッチンの天板に反りがある場合などには、この隙間Gは、さらに少なくなるので、色々な設置条件への対応余裕を見込んで現寸法(前垂れの厚みを42mm以下)に設定しています。この隙間がなくなると、吸気口カバーや前飾り枠が取り付けられなくなることがあります。

## 2. 開口穴位置の限度条件

グリルドアとキャビネットの前面を一致させて設置するための条件への適否を確認する

確認部位	計 算 式	算定結果	設置可能条件	判 定	備 考
X 寸 法	$= (B - A)$		64.5以下(推奨60以下)		64.5を越えると、その差分IHのグリル扉面がキャビネットの扉面より後ろに下がり、それ以上前に出せない
Y 寸 法	$= (C + B - A)$		498.5以上		498.5未満になると、その差分IHのグリル扉面がキャビネットの扉面より前に出て、それ以上後ろに下げられない

## 3. トッププレート先端位置

トッププレート先端の  
位置を算定で求める。

部 位	計 算 式	算定結果
F 寸 法	$= A + 24$	

## 参考掲載 消防法による壁面などからの離隔距離

壁面などコンロ上面より上部に近接する構造物の材質が可燃性の場合

### ■後ヒーター外周(ガラス面の印刷リング外周)からの距離

#### ●後ヒーターがIHヒーターの場合：11cm以上

※消防法では10cm以上であるが、印刷リング～フレームまでの距離が10.75cmのため11cmで指定

#### ●後ヒーターがラジエントヒーターの場合：15cm以上

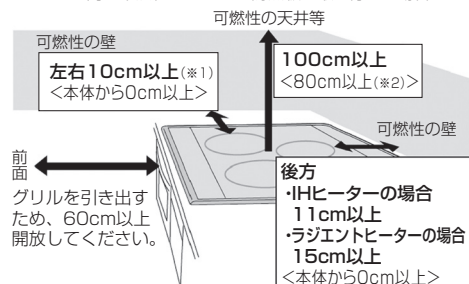
※印刷リング～フレーム端までの距離が機種によって異なるので品番ごとに要確認

### ■左右IHヒーター外周(ガラス面の印刷リング外周)からの距離：10cm以上

※トッププレート幅75cmの場合は、印刷リング～左右フレーム端までの距離が12.75cmのため13cmで指定

### ■可燃性の壁(防火構造壁以外)の場合

・< >内は不燃性の壁または防熱板を取り付けた場合



※1 トッププレート幅75cmの場合は左右13cm以上

※2 「特定安全IH調理器適合品」の場合<60cm以上>

〔消防法 基準適合 組込形〕